

2020年大発会

1月6日、2020年のスタートを切る大発会を行いました。

福岡市内の会員証券会社の方々をはじめ、市場関係者70名の皆様にご出席をいただきました。小田原理事長が年頭の挨拶を行い、引き続き理事長の音頭により、証券市場が益々活況を呈しますよう祈念して、吉例の「博多手一本」を入れました。



最後に、原田理事（ F F G証券株式会社 代表取締役社長 ）の音頭により威勢よく、乾杯を行いました。



理事長挨拶
(2020年大発会)

理事長の小田原でございます。皆様新年あけましておめでとうございます。

本日、このようにたくさんの市場関係者の皆様にお集まりいただき、令和二年、2020年の福岡証券取引所の大発会が開催されますこと、誠にありがたく、厚く御礼申し上げます。

さて、本年は、いよいよ東京オリンピック・パラリンピック開催の年です。全世界が注目するビックイベントが日本で行われます。その高揚感に日本中が沸き立つことと思います。全世界が一つになった大祭典になるよう期待しています。

新年といえば「干支」の話になりますが、今年の干支は「子」(ね)年です。子(ね)年は、十二支の一番目の年です。子(ね)を植物にとたとえると、新しい生命が種子の中にきざし始める時期で、新しい物事や運気のサイクルが始まる年になると考えられています。

また、株式市場では「子(ね)年は繁栄」という格言があり、株価が上昇する傾向にあると言われていています。

本年の株式市場が、いろいろな新しい芽吹きもあり活況を呈するよう期待したいと思います。

さて、国内情勢についてですが、本年は、次世代通信規格である「5G」のサービスが国内外で開始されます。「AI」「IoT」を含め、これら最先端技術が人々を豊かにし、経済的発展に貢献する、そういう新時代に突入し、企業のビジネスチャンスも大きく広がってくることと思います。日本も立ち遅れないようイノベーションの創出に努める必要があります。

一方、海外の情勢ですが、昨年から継続している米中貿易摩擦問題、英国のEU離脱後の動向、中東情勢・日韓関係に加え、アメリカの大統領選挙等が控えています。これら世界経済、ひいては日本の企業活動にも影響を及ぼしかねない事象であり、引き続き、海外の政治・経済情勢に目が離せない、注視する必要がある一年になりそうです。

さて、証券市場ですが、昨年末の日経平均株価は2万3656円の高値で終了しました。本年も引き続き上昇基調で推移するよう願っています。

本年はまた、東京オリンピックがあり、その高揚感の流れにのって、なお一層、企業活動が活発になり、実態経済も回復し、証券市場が賑いをみせることを期待しています。

私共は、福岡を中心にこの九州地域は、スタートアップ企業やベンチャー企業の動きが活発で、地域経済の活性化を願う行政・各種支援機関を含めてIPOへの関心が非常に高まっていると感じています。

一方、人生100年時代に対応した老後の資産形成が話題になり、「貯蓄から投資へ」の流れも、将来的に加速するものと思っています。

この流れを確かなものとするよう、引き続き、最重要課題として「新規上場の促進」「株式市場の活性化」に取り組んでいきたいと思っています。

最後になりますが、私共福証は、昨年70周年を迎えました。私たちは、今後とも、地域経済が自立して持続的に発展していく上で必要不可欠な「直接金融市場」としての役割を十二分に果たし、「地域に根差した取引所」を目指して、役職員一同、より一層の努力を重ねて参りたいと思いません。

皆様方には今年もどうか福証に絶大なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、大発会での挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞ宜しくお願いいたします。